

「2022年度国立台湾大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学工学部2年 陸源欣可

私は今まで海外に長期間滞在したことがなく日本語で形作られた価値観の中で育ち、京都大学に入ってさまざまな経歴を持つ人と交流して自分の知見が狭いことに気付かされながらも、どこに思考の制限が根ざしているのか分からず、具体的に行動できずにいました。そういった背景から、私は今回の留学に参加することを決めました。台湾で生活し、さらに深く長い時間現地の人と話し合い行動を共にすることで、これまでのアンコンシャスバイアスを払拭し自分の変化に役立てることができました。

また中国語が未熟ながらも、身振り手振りや表情や英語も用いて意思疎通に成功すると、会話に必要なのは共通の言語よりもお互いの会話しようとする気持ちだと感じました。結果として見知らぬ人と話すことに抵抗がなくなります。これは留学生という貪欲な立場がそうさせるのか、台湾という和煦な風土が人を活発にさせたのかはわかりませんが、すなわち自分の自信にもなったと思います。そして先ほどとは逆のことを言うようですが、台湾大学で受けた授業はとても有意義で、自分の中国語力の上達に繋がったと実感しています。先生の解説はとてもわかりやすく、よく練られたカリキュラムでした。日本人のみの少人数制だったため自分のペースに沿って学ぶことができ、わからないところは直ぐ先生に聞くことができます。先生方も皆とても明るく、たった三週間でしたが、先生ともとても仲良くなれた気がします。日本のように先生の話を一方向的に聞くでもなく、ある議題についてのみ話すでもなく、さまざまなテーマや自分のことや考えについて隣に座っている人と中国語で話し合い、日本語を忘れて少ない語彙を使ってなんとか言葉を紡ぐことで自分の考え方の癖について知るいい機会になりました。自分の成り立ちに必要な語彙を一通り習えたような気がしています。

平日の午前中は学校での授業でしたが、もちろんそれだけではなく、体験型の活動も多々ありました。麻雀や切り絵、習字をしたり、龍安寺や大稻埕へ行ったり、楽しく過ごしつつ台湾の歴史や背景についても理解を深めることができました。私は今まで日本から出たことがなく、日本の大学院に行ったり日本で就職したりするのだろうと漠然と考えていたのですが、今回留学してさまざまな人と交流し、それだけが選択肢ではないことを知り、この留学を自分の視野を広げるいい経験にできたと思います。